

研究テーマ	III〔造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出すこと〕 描き方を考え、色と形による表現を工夫し、作品への愛着を高める指導の在り方 ～小学校4学年 一版多色版画「ぼくもわたしもフラワーコーディネーター」 の実践を通して～
-------	--

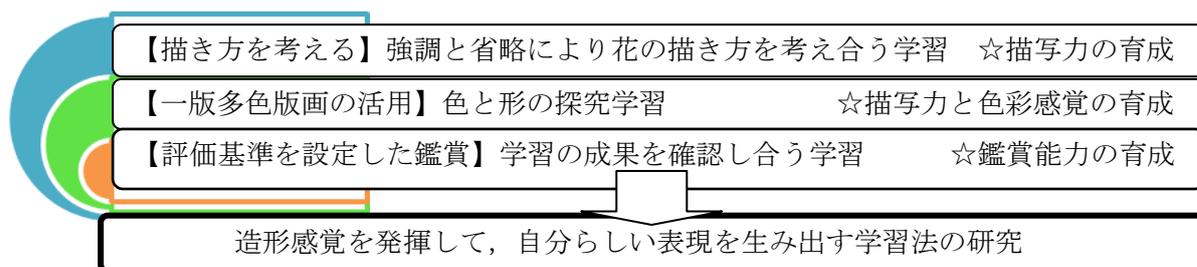
牛久市立向台小学校 教諭 中井 玲子

1 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説図画工作編では、図画工作科によって養われる「情操」は、よさや美しさなどのよりよい価値に向かう傾向をもつ意思や心情と深くかかわっている。それは一時的なものではなく、継続的に働くものであり、教育によって高めることで、豊かな人間性をはぐくむことになる」と述べられている。造形感覚を発揮して自分らしい表現を生み出す学習を積み重ねていくことによって児童の情操を養うことにつながるのではないかと考えた。

また、3学年及び4学年の目標と内容において、「進んで表現したり鑑賞したりする態度を育てる」とは、自分の資質や能力を発揮しながら、友人とかかわり合い、表現や鑑賞の活動を意欲的に行うことが中学年特有のよさをはぐくむと示している。本学級において、友人とかかわりながら描き方を考え、色と形による表現を工夫し、互いに自己の作品に愛着がもてる鑑賞の時間を設定することにより目標の具現化が図れるのではないかと考え、本テーマを設定した。

2 研究の目的



3 研究の仮説

描きたい対象を児童が分析し描き方を考え出すことにより発想・構想の力を高め、自他の作品に愛着がもてる表現と鑑賞の学習を積み重ねていけば、児童は主体的に作品づくりに取り組みながら造形感覚を発揮するであろう。

4 研究の方法

仮説を検証するために、下記の視点に基づいて授業実践を行い、児童の変容の分析を行う。

- 花の描き方を考え合う・はなびらを粘土で・型紙で・スケッチで ○課題解決学習
- 版画の技法の習得 ○彫刻刀の正確な使い方の学習 ○重色と混色の活用
- 学習過程を振り返る鑑賞活動 ○パネルディスカッションによる学習の成果の確認

5 実践例

① 指導の実際（指導案）

第4学年3組 図画工作科学習指導案

指導者 中井 玲子

1 題材名 「ぼくもわたしもフラワーコーディネーター」

2 題材を通して育てたい力

○ 色と形を工夫して、美しい花を描こうとする。 【関心・意欲・態度】

○ 複雑な形を単純化して描く楽しさを味わい、多様な花を描くことができる。 【発想や構想の能力】

○ 彫刻刀で描く技法を身に付け、混色と重色を活用して花を描くことができる。 【創造的な技能】

○ 自他の作品から色と形を工夫して描いた作品について話し合い、作品への愛着を高める。 【鑑賞の能力】

3 題材について

(1) 題材観

本題材で、子ども達は初めて彫刻刀を用いて一版多色刷りの木版画に挑戦する。一版多色刷りによる木版画は、一つの版に色を塗り重ねていくことで表現する方法である。この表現方法を用いることで、自分の思いを表すのにどのような色を塗り重ねていくか、塗り重ねたときの様子を思い浮かべながら、その組み合わせについて考えを巡らせることができ、色の組み合わせに目を向けた表現活動を進めるのに適していると考えられる。

また、造形感覚を発揮し、自分らしい表現を生み出すために、下絵を制作する際に複雑な形も単純化することによって、容易に描くことができることを理解させたい。そして、描けなかったものがたくさん描けるようになり、一つの作品として形になった喜びを味わわせたい。

(2) 指導観（児童数32人）

本学級の児童は図工の時間を楽しみにしており、これまでの制作活動にも大変意欲的に取り組んできた。しかし、初めての彫刻刀を使用しての木版画ということで、制作するに当たって不安を感じている児童も少なくない。また、花の絵を1種類しか描けない、全く描けない児童を合わせると学級の半数を占めることから、本題材の表現活動に自信をもてない児童が多いことが分かる。

本題材では、下絵を制作する前段階で、花の描き方を考え、学習することにより、描けなかった花の絵がたくさん描けるようになる喜びを味わわせたい。

また、彫刻刀の安全な使い方を徹底して身に付けることで、安心して作品作りに取り組ませていきたい。

さらに、完成作品に蝋燭を塗り付けて保護膜を貼ることで、作品の長期保存を行い、自分の作品への愛着を高めていきたい。

4 学習計画と評価計画（10時間取り扱い、本時は第2次第6時）

次	時	学 習 内 容	評 価 計 画				
			関	発	創	鑑	評価規準
1	1	・一版多色刷りの作品を見て、自分がこれから作ろうとする作品へのイメージをふくらませる。	◎	○			・色と形を工夫して、美しい花を描こうとする。
	2	・花の描き方を考えながら、様々な花を描く。	○	◎			・複雑な形を単純化して描く楽しさを味わい、多様な花を描くことができる。
	3	・花の構図を考えながら、下絵を描く。	○	◎			・自分らしい表現を生み出すために、構想を練りながら下絵を描くことができる
	4	・彫る部分と残す部分を考えながら、版を彫る。		○	◎		・彫刻刀で描く技法を身に付けることができる。
	5	・多色刷り版画の刷り方を知り、版を刷る。		○	◎		・混色と重色を活用して花を描くことができる。
2	6	・完成した作品をもとに各制作過程での工夫について話し合い、完成した喜びを味わう。	○			◎	・自他の作品から色と形を工夫して描いた作品について話し合い、作品への愛着を高める。

5 本時の学習

(1) 目標

自他の作品から色と形を工夫して描いた作品について話し合い、作品への愛着を高める。

(2) 準備・資料

教師：テレビ、ビデオデッキ、事前・事後のアンケート結果、工夫したところグラフ、大変だったところグラフ
 児童：ワークシート、頑張り度ワッペン

(3) 展開

学習活動及び内容	支援（・）評価（○）
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">完成祝賀会を開こう。</div> <p>2 パネルディスカッションをし、各制作過程において頑張った点や工夫した点、苦勞した点について話し合う。</p> <p>(1) 下絵について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉の形 ・花卉の重ね方 ・デザイン ・構図 <p>(2) 彫りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀の持ち方 ・木版の彫り方 ・安全な彫り方 <p>(3) 刷りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・版への塗り方 ・混色の塗り方 ・重色の塗り方 <p>(4) 掲示について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蠟燭の塗り方 ・掲示する場所とその理由 <p>3 できなかったことができるようになったことを知りこの題材でどんな力が付いたのかを確認する。</p> <p>4 本時の学習を振り返って自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを達成できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作した作品もとに、頑張った点や工夫した点、苦勞した点などを話し合い、完成した喜びをみんなで分かち合うことを確認する。 ・司会やパネリストを中心に話し合いを進めるようにする。 ・黒板係が話し合いで出た意見を整理しながら板書することで、スムーズな議事進行を心掛けるようにする。 ・作品係が話し合いで出た作品を皆に教えることで、その作品に注目させ、より深い話し合いができるようにする。 ・事前に各制作過程における頑張った点や工夫した点、苦勞した点、友達に聞いてみたい事などについて各自がワークシートに考えをまとめておくことで、全員が積極的に話し合いに参加できるようにしたい。 ・工夫したところや大変だったところを集計したグラフを掲示することで、自分と友達の意見を比較しやすくする手立てとする。 ・各自、制作に関する頑張り度ワッペンを皆に見えるように表示しておくことで、話し合いのスムーズな進行の支援とする。 ・各制作過程の様子を記録したビデオを見ることにより、制作時の気持ちを思い出し、話し合いを深める一助とする。 ・面白い作品の作り方について制作者に質問したり、その作品の制作者からアドバイスをもらったりして、鑑賞の力を高めるようにする。 <p>○自他の作品から色と形を工夫して描いた作品について話し合い、作品への愛着を高めることができたか。</p> <div style="text-align: right;">〈鑑賞〉（観察・発表・作品）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A：自分や友だちの作品についてのよさや工夫点を話し合い作品への愛着を高めることができる。</p> <p>B：自分や友だちの作品についてのよさや工夫点を知り、作品への愛着を高めることができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Aに達した児童へは、友達の意見を基に今度一版多色刷り木版画をするときには、どんなことに気を付けて行いたいか考えるよう助言する。 ・Bに達しない児童へは、ワークシートを基に頑張った点や工夫した点、苦勞した点について発表できるよう支援をする ・事前と事後のアンケート結果を掲示し、できなかったことができるようになった喜びを味わえるようにする。

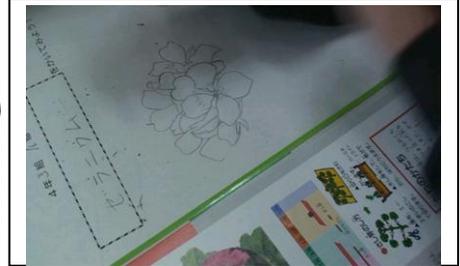
② 児童の主体的な学び

ア 花を描く 下絵について

◎発想・構想の力を育てる

- ① 花びらが複雑に重なり合う花の形を単純化して描く描き方を見つけ合ったことにより、今まで描けなかった美しい花の形が描けるようになった。
- ② 花瓶や花束に置き換えて、花の配置や色合いのバランスを児童一人一人が主体的に構想を練り、体得した花の描き方を活用しながら下絵づくりを進め、発想・構想の力が発揮できた。

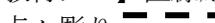
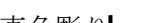
花びらの形から花の形の特徴を考える。・粘土で・色紙で・丸や波形に単純化して描き方を考え合う。



イ 彫りについて

◎技法を身に付ける

- ① 花びらが重なり合う複雑な花の形も、形のシルエットや輪郭線に置き換え、省略と単純化することによって花の姿が強調されることに児童が気付いた。省略と強調によって児童が生み出した花の形を表す線を彫刻刀で彫り、版として表現する版画の楽しさを体験することができた。
- ② 彫刻刀も筆と同じく、線で形を表現する道具として活用できるように、直線、曲線、波線、点や破線の練習を版木の裏側で児童の作品に合った練習を繰り返した。特に、曲線を彫り進めるには版木を円形に動かすこと、版木を押さえる手の位置は、彫刻刀の刃の進行方向にならないことを実践的に練習し、正確で安全な彫刻刀の使い方を習得させた。

【教材メモ】直線彫り  波線彫り 
点々彫り  曲線彫り  直角彫り 
丸刃と三角刃を使用して、自己作品の使用頻度の多い線の種類に応じて練習を行う。



ウ 彩色について

◎重色と混色の活用

タンポによる彩色は、自然に混じり合う混色により、ぼかしやグラデーションによる微妙な色の変化を表現することができる。自然の花の美しい色合いに近づけることができるように重色や混色を児童なりに活用させる。

◎蝋を塗り保護膜をつくる

彩色が完了した画面に、蝋燭を丹念に塗り重ね保護膜を作る。絵の具や用紙に蝋が浸透し光沢のある画面が完成する。防水と色落ち防止の効果があり、さらに発色が増す。

【教材メモ】○鮮明な発色や色合いとなるように黒のケント紙を使用し効果を高める。○タオルを丸めたタンポ又はスポンジに絵の具を付け、水は一切使用せず優しく叩くように印刷を行う。塗り重ねた蝋は作品を傷付けないように優しく削る。



エ 完成祝賀会を開こう 鑑賞について

◎作品への愛着を高める鑑賞（パネルディスカッション）

- ① 下絵、彫り、刷り、掲示の4つの過程において自己の作品について述べられるパネラーを設定し、自他の努力点や工夫した点について意見を述べ合い、各自に作品に秘められた発想・構想の素晴らしさや技法の習得と活用について話し合う。
- ② 完成作品の展示方法について話し合う。花の好きな祖父母に届けたい、福祉施設に展示したい、自宅に飾って誉めてもらいたい等、話し合いによって愛着が高まった作品の展示法について話し合うことにより、美術作品がもたらす価値に気付かせ、情操教育の一翼を担う図画工作科の意義を知らせたい。
- ③ 鑑賞会の様子と作品が自宅に戻った時の誉め言葉を学級だよりで伝え、家庭との評価の共有化を図り、作品づくりを通して育った資質や能力を分かりやすく説明する。

【教材メモ】制作過程に沿ったパネリストを立て、努力点や学習の成果を語り、話し合いの方向性を示す。ビデオによって学習過程を振り返り、学習課題や達成した目標を互いに確認し合う。学習の振り返りを通して、重要語句や評価の観点を確認する。



6 成果と課題

① 成果

造形感覚を発揮して、自分らしい表現を生み出す学習に着目し、描きたい対象を自分なりの描き方で表現する課題解決学習に児童が取り組んだ。描きたい花を自分なりに分析し、感じたことや気付いたことを基にして自分なりの描き方を考案した。その結果、【表1】に示されるように児童の描写力が高まり、描ける花の種類の数が増加し、スケッチすることに自信がもてた。

また、【表2】から児童は、鑑賞の時間を通して学習過程を振り返り、花びらに秘められた美しい色合いの再現に多くの児童が挑戦し彩色の技法を身に付けたこと、完成した自己の作品に愛着をもち、どのように展示活用するか真剣に考えながら話し合ったことを学習の成果として答えている。

今回の学習を振り返り、これまでの図画工作の時間より楽しい図画工作の時間だった、一段高い充実した授業だったと多くの児童が感想を述べている。

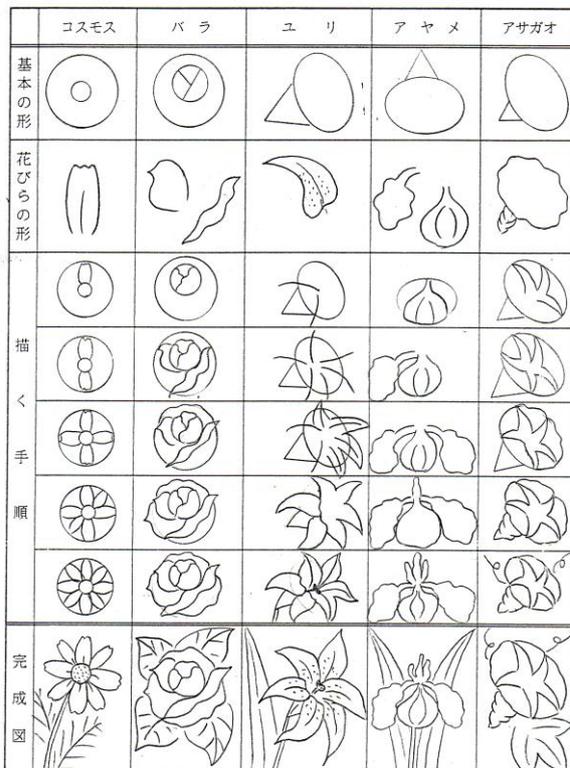
② 課題

- 今回の研究を応用した水彩画の教材開発に努めたい。
- 自己の作品に愛着をもたせる表現と鑑賞の研究に取り組みたい。

項目	授業前	授業後
描けない	4人	0人
1種類	12人	3人
2～3種類	8人	8人
5～9種類	6人	17人
10種類以上	2人	4人

学習過程	工夫した場面	大変だった場面
下絵	8人	1人
彫り	7人	8人
刷り	16人	8人
作品掲示	1人	15人

資料1 【花の描き方】



資料2 【学習カード】

「はくもわたしもフラワーコーディネーター」
4年組()

完成祝が会を開こう

1. どの手順が一番工夫したか？

工夫した手順	工夫したこと
下絵の彫り	くろいりにあわせていろをぬったこと

2. どの手順が一番大変でしたか？

大変だった手順	大変だったこと
下絵の彫り	100年もたせるためにうすく1本をぬることにたがいをいれてぬったこと

3. 作品をどこに飾りたいですか。

飾りたい場所	その理由
自分の教室	お父さんお母さんお姉ちゃんに見せるようにしたいから
リビング	お母さんお父さんお姉ちゃんに見せるようにしたいから

4. 友達に聞いてみたいことは何ですか？

聞いてみたい人	聞いてみたいこと
あ	どうやってバラの模様をたいたのか
あ	シボミの分まかた
あ	ほろいりのかまかた
あ	ほろいりのかまかた

5. 今後、本展覧に取り組みるときに気をつけたいことは何ですか？

気をつけたいこと
どうやってぬらかたにできるようにすること
くろいりかまかたをいれよう

② 花びらの形、花の色、はんのすり方、どれもていねいで素晴らしい作品に仕上がりましたね。